

日本専門医機構認定 放射線科領域 専門研修プログラム

(作成 日本医学放射線学会)

承認 2015.12.14
修正 2017. 5. 22
修正 2022. 4. 1

2023年度東京大学放射線科 専門研修プログラム

(放射線科領域専門研修プログラム新整備基準に準拠)

目次

1.	放射線科領域専門研修の教育方針	1
2.	研修体制	1
3.	専門研修施設群における研修分担	10
4.	募集新規専攻医数	13
5.	専門研修応募者の選考方法	13
6.	研修内容	14
7.	研修方略	17
8.	研修実績の記録	27
9.	研修の評価	28
10.	研修の休止・中断、異動	29
11.	労働環境、労働安全、勤務条件	30

1. 放射線科領域専門研修の教育方針

整備基準1,2,3

実臨床における放射線科の役割は、X線撮影、超音波検査、CT、磁気共鳴検査(MRI)および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療(インターベンショナル・ラジオロジー:IVR)、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。

放射線科領域専門制度は、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与する、優れた放射線科領域の専門医を育成する制度であることを基本理念としています。そして、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。

放射線科専門医の使命は、画像診断(X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査等)、IVR、放射性同位元素(RI)内用療法を含む放射線治療の知識と経験を有し、放射線障害の防止に努めつつ、安全で質の高い放射線診療を提供することにあります。

日本医学放射線学会が認定し日本専門医機構が承認した放射線科専門研修プログラム新整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の到達目標および経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の到達目標および経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会(ハンズオン・トレーニング等)及びe-learningの活用等によって、その研修を補完します。

2023年度東京大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラムは上記の新整備基準に従い、3年以上の専門研修により、放射線科領域における幅広い知識と錬磨された技能、ならびに医師としての高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医(以下、専攻医)を教育します。

2. 研修体制

整備基準26,27,36

本プログラムは、東京大学医学部附属病院放射線科を専門研修基幹施設として、表紙に掲げる各施設を専門研修連携施設として加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムです。専門研修施設群は、専門研修基幹施設との密接な連携を保つことができる二次医療圏から同一都道府県内を基本としながらも、近隣の範囲に及びます。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修基幹施設の責任者(部長、科長など)があたり、プログラム全体について責任を持ちます。専門研修連携施設の指導管理責任者は、各施設の責任者(部長、科長など)があたり、専攻医の研修ならびに労働環境・条件など全般にわたる責任を負います。専門研修プログラム連携施設担当者は、専門研修プログラム管理委員会における各施設の代表者です。指導にあたる専門研修指導医は、放射線科領域における十分な診療経験と教育および指導能力を有する医師であり、日本医学放射線学会認定の研修指導者資格を取得しています。研修の性質上複数の指導医が関わりますが、1名の指導医が評価に基づいた指導を行うことが可能な専攻医数は総計3名以内です。

1) 専門研修施設群

整備基準23,24,31,35

専門研修基幹施設は、専門研修プログラムを管理し、本プログラムに参加する専攻医ならびに専門研修連携施設および専門研修関連施設を統括します。専門研修連携施設は、専門研修基幹施設が定めた本プログラムに基づいて専攻医に専門研修を提供します。専門研修関連施設は、専門研修基幹施設と専門研修連携施設では経験しきれない研修項目を補完します。

なお、専門研修基幹施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、専門研修連携施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、修練機関または特殊修練機関として認定され

ており、それぞれ放射線科専門研修プログラム新整備基準の専門研修基幹施設、専門研修連携施設の認定基準を満たしています。専門研修関連施設は非認定施設ですが、専門研修基幹施設である東京大学医学部附属病院放射線科の責任のもとで専門研修を委嘱した施設で、研修内容は超音波検査、消化管造影、IVR等に限られます。

(1) 専門研修基幹施設：東京大学医学部附属病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

専門研修プログラム統括責任者(指導医)：阿部 修(放射線科長、教授)

専門研修指導責任者(指導医)：花岡 昇平

専門研修指導医：中川 恵一

専門研修指導医：林 直人

専門研修指導医：山下 英臣

専門研修指導医：高尾 英正

専門研修指導医：吉川 健啓

専門研修指導医：渡谷 岳行

専門研修指導医：柴田 英介

専門研修指導医：雨宮 史織

専門研修指導医：五ノ井 渉

専門研修指導医：石田 尚利

専門研修指導医：桂 正樹

専門研修指導医：渡邊 祐亮

専門研修指導医：扇田 真美

専門研修指導医：竹中 亮介

専門研修指導医：三木 聡一郎

専門研修指導医：久保 貴俊

専門研修指導医：中井 雄大

専門研修指導医：鈴木 文夫

専門研修指導医：片野 厚人

専門研修指導医：八坂 耕一郎

専門研修指導医：中尾 貴祐

(2) 専門研修連携施設：関東労災病院放射線診断科、放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医)：松田 出(放射線診断科部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医)：松田 出(放射線診断科部長)[兼任]

専門研修指導医：荒平 聡子

専門研修指導医：石井 仁也

専門研修指導医：鈴木 藍子

(3) 専門研修連携施設：自治医科大学附属病院画像診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

専門研修プログラム統括責任者(指導医)：森壘(教授)

専門研修指導責任者(指導医)：森壘[兼任]

専門研修指導医：白井克幸

専門研修指導医：松木 充

専門研修指導医：篠崎健史

専門研修指導医：古川理恵子

専門研修指導医：藤井裕之

専門研修指導医：木島茂喜

専門研修指導医：大竹悠子

専門研修指導医：中田和佳

専門研修指導医：高橋聡

専門研修指導医：宇賀神敦

専門研修指導医：中俣彰裕

専門研修指導医：小林遼真

専門研修指導医:小川一成
専門研修指導医:菊地智博
専門研修指導医:國友直樹

(4) 専門研修連携施設:公立昭和病院

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):海野俊之(放射線部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):海野俊之(放射線部長)[兼任]

専門研修指導医:海野俊之

専門研修指導医:宮澤一成

専門研修指導医:高柳ともこ

(5) 専門研修連携施設:練馬光が丘病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):牧田幸三(放射線部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):牧田幸三(放射線部長)[兼任]

専門研修指導医:林貴菜

専門研修指導医:白田剛

専門研修指導医:赤松展彦

(6) 専門研修連携施設:東京警察病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):佐藤次郎(放射線科部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):佐藤次郎(放射線科部長)[兼任]

専門研修指導医:笹野仲史

専門研修指導医:三瀬葉子

専門研修指導医:狩野洋輔

(7) 専門研修連携施設:東京都立墨東病院 診療放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):松岡勇二郎(部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):松岡勇二郎(部長)[兼任]

専門研修指導医:高橋 正道

専門研修指導医:川合 豪

(8) 専門研修連携施設:虎の門病院放射線診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者(指導医):増本智彦(放射線診断科部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):増本智彦(放射線診断科部長)[兼任]

専門研修指導医:仲田記子

専門研修指導医:中埜良康

専門研修指導医:松永英明

専門研修指導医:住田薫

専門研修指導医:佐藤祥恵

専門研修指導医:小塚拓洋

専門研修指導医:富永理人

専門研修指導医:今井昌康

(9) 専門研修連携施設:国立精神・神経医療研究センター病院放射線科

日本医学放射線学会認定特殊修練機関

指導管理責任者(指導医):佐藤典子(放射線部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):佐藤典子(放射線部長)[兼任]

専門研修指導医:木村有喜男

専門研修指導医:重本蓉子

専門研修指導医:千葉英美子

- (10) 専門研修連携施設: 東京都健康長寿医療センター放射線科
日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者(指導医): 徳丸阿耶(放射線診断科部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 徳丸阿耶(放射線診断科部長)[兼任]
専門研修指導医: 角美奈子
専門研修指導医: 高田晃一
- (11) 専門研修連携施設: 東部地域病院放射線科
日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者(指導医): 城戸内 孝(放射線科副部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 城戸内 孝(放射線科副部長)[兼任]
専門研修指導医: 菅野 重明
- (12) 専門研修連携施設: 国際医療福祉大学成田病院放射線科
日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者(指導医): 桐生茂(放射線科主任教授)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 大西かよ子(放射線科教授)
専門研修指導医: 赤羽正章
専門研修指導医: 吉岡直紀
- (13) 専門研修連携施設: 順天堂大学医学部附属浦安病院放射線科
日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者(指導医): 鈴木通真(放射線科長補佐)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 鈴木通真(放射線科長補佐)[兼任]
専門研修指導医: 京極伸介
専門研修指導医: 齋藤アンネ優子
専門研修指導医: 菊地奈央
- (14) 専門研修連携施設: がん研究会有明病院放射線治療部・画像診断部
日本医学放射線学会認定総合修練機関
指導管理責任者(指導医): 吉岡 靖生(放射線治療部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 吉岡 靖生(放射線治療部長)[兼任]
専門研修指導医: 松枝清
専門研修指導医: 山元龍哉
専門研修指導医: 寺内隆司
専門研修指導医: 小口正彦
専門研修指導医: 利安隆史
専門研修指導医: 浅利崇生
専門研修指導医: 田口千藏
専門研修指導医: 田中宏子
専門研修指導医: 負門克典
専門研修指導医: 田中優美子
専門研修指導医: 菊池真理
専門研修指導医: 植野映子
専門研修指導医: 平塚真生子
専門研修指導医: 北井里実
専門研修指導医: 佐藤嘉尚
専門研修指導医: 岩佐亮史
専門研修指導医: 佐藤洋造
専門研修指導医: 藤原良将
専門研修指導医: 小山真道
専門研修指導医: 國分優美
- (15) 専門研修連携施設: NTT東日本関東病院放射線科
日本医学放射線学会認定総合修練機関
指導管理責任者(指導医): 山田晴耕(放射線科部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 山田晴耕(放射線科部長)[兼任]

専門研修指導医:日下部将史
専門研修指導医:小林伶子
専門研修指導医:大澤まりえ
専門研修指導医:児玉紘子
専門研修指導医:佐藤裕子

専門研修指導医:白水一郎
専門研修指導医:豊田達也

(16) 専門研修連携施設:順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):桑鶴良平(放射線科主任教授 放射線部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):白石昭彦(放射線科準教授)
専門研修プログラム副統括責任者(指導医):青木茂樹

専門研修指導医:鹿間直人
専門研修指導医:村上康二
専門研修指導医:中西淳
専門研修指導医:明石敏明
専門研修指導医:鈴木一廣
専門研修指導医:和田昭彦
専門研修指導医:鎌形康司
専門研修指導医:岡田慎悟
専門研修指導医:加藤仁美
専門研修指導医:佐藤香菜子
専門研修指導医:小杉康夫
専門研修指導医:佐野勝廣
専門研修指導医:富澤信夫
専門研修指導医:齋藤尚子
専門研修指導医:菊田潤子
専門研修指導医:大島理規
専門研修指導医:下地啓吾
専門研修指導医:隈丸加奈子
専門研修指導医:萩原彰文
専門研修指導医:宇田川剛史
専門研修指導医:藤榮博史

(17) 専門研修連携施設:埼玉医科大学国際医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者(指導医):馬場康貴(放射線科運営責任者、画像診断科診療部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):岡田吉隆
専門研修指導医:田島廣之
専門研修指導医:中澤 賢
専門研修指導医:宇佐見陽子

(18) 専門研修連携施設:国際医療福祉大学三田病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):國松 聡(放射線部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):國松 聡(放射線部長)[兼任]
専門研修指導医:奥田逸子
専門研修指導医:田島 拓
専門研修指導医:西原陽介
専門研修指導医:稲野祥子

(19) 専門研修連携施設:順天堂大学医学部附属静岡病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者(指導医):入江隆介(放射線科医長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):入江隆介(放射線科医長)[兼任]
専門研修指導医:松波環
専門研修指導医:八代大佑
専門研修指導医:川本晃史

(20) 専門研修連携施設:北里大学病院放射線診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

専門研修指導責任者(指導医):井上 優介(放射線診断科長、教授)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):井上 優介(放射線診断科長、教授)[兼任]
専門研修指導医:石山 博條(放射線治療科長、教授)
専門研修指導医:原留 弘樹
専門研修指導医:浮洲 龍太郎
専門研修指導医:松永 敬二
専門研修指導医:ウッドハムス 玲子
専門研修指導医:藤井 馨
専門研修指導医:川上 正悟

(21) 専門研修連携施設:帝京大学医学部附属病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):大場 洋(放射線科長、教授)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):大場 洋(放射線科長)[兼任]
専門研修指導医:近藤 浩史
専門研修指導医:神長 達郎
専門研修指導医:白石 憲史郎
専門研修指導医:山本 真由
専門研修指導医:山本 麻子
専門研修指導医:木下 光博
専門研修指導医:野元 昭弘
専門研修指導医:和田 武

(22) 専門研修連携施設:東京北医療センター

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医):古賀 久雄(放射線部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):古賀 久雄(放射線部長)[兼任]
専門研修指導医:田村 綾子
専門研修指導医:小坂 哲也

(23) 専門研修連携施設:国立がん研究センター中央病院放射線診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者(指導医):楠本 昌彦(放射線診断科長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医):楠本 昌彦(放射線診断科長)[兼任]
専門研修指導医:飯沼 元
専門研修指導医:曾根 美雪
専門研修指導医:内山 菜智子
専門研修指導医:渡辺 裕一
専門研修指導医:三宅 基隆
専門研修指導医:菅原 俊祐
専門研修指導医:伊藤 公輝
専門研修指導医:久保 優子
専門研修指導医:諸岡 都
専門研修指導医:伊藤 千尋
専門研修指導医:橘川 奈生
専門研修指導医:中野 祥子
専門研修指導医:木村 慎太郎
専門研修指導医:小澤 瑞生

専門研修指導医: 井垣 浩
専門研修指導医: 中山 優子
専門研修指導医: 大熊 加恵
専門研修指導医: 村上 直也
専門研修指導医: 金田 朋也
専門研修指導医: 高橋 加奈
専門研修指導医: 稲葉 浩二
専門研修指導医: 柏原 大朗
専門研修指導医: 高橋 彩加
専門研修指導医: 櫻町 円香

(24) 専門研修連携施設: 東邦大学医療センター大森病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者(指導医): 堀 正明(放射線科教授)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 小林 正周

専門研修指導医: 寺原敦朗

専門研修指導医: 白神伸之

専門研修指導医: 水村直

専門研修指導医: 神谷昂平

専門研修指導医: 芝田紫野

専門研修指導医: 鈴木賢一

専門研修指導医: 古寺順一

専門研修指導医: 吉田茉莉子

(25) 専門研修関連施設: 川崎幸病院放射線診断科・放射線治療センター

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医): 加藤 大基(放射線部長/放射線治療センター長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 加藤 大基(放射線部長/放射線治療センター長)[兼任]

専門研修指導医: 守屋 信和

専門研修指導医: 高柳 美樹

専門研修指導医: 青木 利夫

専門研修指導医: 田中 絵里子

専門研修指導医: 木村 健

専門研修指導医: 鹿島 正隆

専門研修指導医: 中川 達生

専門研修指導医: 長谷 聡一郎

専門研修指導医: 加藤 大基

専門研修指導医: 切通 智巳

(26) 専門研修関連施設: 東京通信病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医): 大久保敏之(放射線科部長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 大久保敏之(放射線科部長)[兼任]

専門研修指導医: 大久保 敏之

専門研修指導医: 鈴木 丈夫

専門研修指導医: 原 美佐子

専門研修指導医: 松坂 優己

専門研修指導医: 塩田 沙織

専門研修指導医: 北口 真由香

(27) 専門研修関連施設: 帝京大学医学部附属溝口病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者(指導医): 多湖 正夫(放射線科教授・科長)

専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 多湖 正夫(放射線科教授・科長)[兼任]

専門研修指導医: 林 高樹

専門研修指導医: 軽部 雅崇

- (28) 専門研修関連施設: 日本赤十字医療センター放射線科
日本医学放射線学会総合修練機関
指導管理責任者(指導医): 扇 和之 (放射線診断科部長)
専門研修プログラム連携施設担当者(指導医): 扇 和之(放射線診断科部長)[兼任]
専門研修指導医: 西村 潤一
専門研修指導医: 野中 哲生
専門研修指導医: 佃 俊二
専門研修指導医: 佐藤 英尊
専門研修指導医: 横手 宏之
専門研修指導医: 山下 昌祥
専門研修指導医: 原田 明典
専門研修指導医: 伊藤 浩一
専門研修指導医: 山田 哲久

2) 専門研修プログラム管理委員会および専門研修プログラム連携施設研修管理委員会

整備基準34,37,38,39

(1) 放射線科領域専門研修プログラム管理委員会

専門研修基幹施設である東京大学医学部附属病院には、放射線科領域専門研修プログラム管理委員会(以下、専門研修プログラム管理委員会)を設置しています。専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者、専門研修プログラム連携施設担当者、専門研修指導責任者等で構成され、必要に応じて専門研修指導医やメディカルスタッフ(診療放射線技師や看護師等)等に意見を求めます。

専門研修プログラム管理委員会では、専攻医と専門研修プログラム全般を統括的に管理し、専門研修プログラムの継続的改良を行います。専攻医の採用に始まり、専攻医および専門研修指導医から提出される評価報告書にもとづき、専攻医および専門研修指導医に対して必要な助言を行います。また、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専門研修プログラム統括責任者が研修修了の判定を行います。

(2) 放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会

各専門研修連携施設には、専門研修プログラム管理委員会と連携する放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会(以下、連携施設研修管理委員会)を設置しています。連携施設研修管理委員会は、指導管理責任者、専門研修指導医等で構成され、必要に応じてメディカルスタッフ(診療放射線技師や看護師等)等に意見を求めます。ただし、専門研修指導医が一人の専門研修連携施設では連携施設研修管理委員会の設置が不要のため、当該指導医が専門研修プログラム連携施設担当者も併任しています。

連携施設研修管理委員会では、専門研修連携施設における専攻医の研修を管理します。連携施設研修管理委員会における評価に基づいて、指導管理責任者は専攻医の研修評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。また、専門研修プログラム管理委員会で改良された専門研修プログラムや専門研修体制は、連携施設研修管理委員会を通じて専門研修連携施設に伝達されます。

3) 前年度(2021年度)診療実績

整備基準31

施設名	東京大学医学部附属病院放射線科	関東労災病院 放射線診断科、放射線治療科	自治医科大学大学附属病院 画像診断科・放射線	公立昭和病院 放射線科	練馬光が丘病院 放射線科	東京警察病院放射線科	東京都立墨東病院 診療放射線科
-----	-----------------	-------------------------	---------------------------	----------------	-----------------	------------	--------------------

			治療科				
役割	基幹	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放射線学会認定機関	総合修練	修練	総合修練	修練	修練	修練	修練
指導医数 [*]	1.9	4	2.7	0.43	0.57	0.57	3
CT検査件数 ^{**}	15600	7000	4494	10,000	1100	800	240
IVR施行件数 ^{**}	284	200	48	150	14	20	12
放射線治療患者数 ^{***}	480	120	100	0	0	0	0

施設名	虎の門病院 放射線診断科 放射線治療科	国立精神・神経医療研究センター病院 放射線科	東京都健康長寿医療センター病院 放射線科	東部地域病院 放射線科	国際医療福祉大学成田病院 放射線科	順天堂大学医学部附属浦安病院 放射線科	がん研究会有明病院 放射線治療科・画像診断部
役割	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放射線学会認定機関	総合修練	特殊修練	修練	修練	総合修練	総合修練	総合修練
指導医数 [*]	1.3	2	0.75	2	1	1	4
CT検査件数 ^{**}	7500	1,600	5200	12523	24,802	4000	2,400
IVR施行件数 ^{**}	0	0	0	26	112	20	120
放射線治療患者数 ^{***}	50	0	102	0	293	60	100

施設名	NTT東日本関東病院 放射線科	順天堂大学附属順天堂医院 放射線科	埼玉医科大学国際医療センター 放射線科	国際医療福祉大学三田病院 放射線科	順天堂大学医学部附属静岡病院 放射線科	北里大学病院 放射線診断科・放射線治療科	帝京大学医学部附属病院 放射線科
役割	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放射線学会認定機関	総合修練	総合修練	総合修練	修練	総合修練	総合修練	修練
指導医数 [*]	1.1	3.4	1	0.71	1	4	9
CT検査件数 ^{**}	3,800	5,000	3942	1,900	11,000	8000	15,000
IVR施行件数 ^{**}	25	10	48	3	15	75	150
放射線治療患者数 ^{***}	60	0	0	0	50	80	200

施設名	東京北医療センター 放射線科	国立がんセンター中央病院 放射線科	東邦大学医療センター大森病院 放射線科	川崎幸病院 放射線診断科・放射線治療センター	東京通信病院 放射線科	帝京大学医学部附属溝口病院 放射線科	日本赤十字医療センター 放射線科	(合計)
役割	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	28
日本医学放射線学会認定機関	修練	総合修練	総合修練	修練	修練	修練	総合修練	
指導医数 [*]	3	1.7	3.3	3.3	0.86	1.0	2.0	60.59
CT検査件数	16000	14924	9000	8,780	5,000	2,000	5200	206,805

IVR施行件数	100	1712	6	176	100	20	78	3,524
放射線治療患者数	0	525	200	188	100	20	53	2,781

(指導医数` = 各施設の指導医数 ÷ その施設で参加するプログラム数)

(CT検査件数,IVR施行件数` = 複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

(放射線治療患者数` = 新規治療患者数と再治療患者数との合計で、複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

3. 専門研修施設群における研修分担

整備基準4,5,6,7

専門研修施設群では、研修施設それぞれの特徴を生かし、専門研修カリキュラムに掲げられた目標に則って放射線科領域専門研修を行います。

- 東京大学医学部附属病院では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法(X線、超音波、CT、MRI、核医学)、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。豊富な症例と多数の指導医による指導のもと、放射線医学に関する全分野の基礎から高度な知識まで多角的な修練を行います。日常的に学生実習や初期研修のローテーションも行われており、段階的に教育についての経験を培います。また、学会発表や臨床研究も指導します。
- NTT東日本関東病院では、急性期疾患、緩和ケア症例、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- 川崎幸病院では、救急疾患の画像診断およびIVRおよび頻度の高い悪性腫瘍の放射線治療を経験することで東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- がん研有明病院では、がん専門病院として希少がんを含めた豊富な悪性腫瘍(脳腫瘍と小児を除く)の画像診断(X線、超音波、CT、MRI、核医学)、IVR、放射線治療に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院の研修を補完します。
- 関東労災病院では、一般的な画像診断、超音波検査および消化管造影手技と読影を研修し、IVR及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科研修を補完します。
- 北里大学病院では、画像診断法(X線撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRI、核医学)、IVR並びに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。
- 公立昭和病院では、急性期疾患、頻度の高い疾患から比較的稀な疾患の画像診断、IVRおよび核医学画像診断に対応できる総合的な診断能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- 国際医療福祉大学三田病院では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法(X線、CT、MRI)、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。診断分野では豊富な検査症例があり、治療分野では高精度治療だけではなく、チーム医療による患者さんに寄り添う治療を実践しており、放射線医学に関する総合的、多角的な修練を行い、放射線科医師としての総合的な診療能力を培います。

- 国立精神・神経医療研究センター病院では、精神神経疾患における検査の適応と読影の実際の研修、学会発表や論文作成などの学術活動を行いことができ、東京大学附属病院放射線科の研修を補完します。
- 埼玉医科大学国際医療センターでは、がん、心臓病、および脳卒中を含む高度救命救急の分野を中心として、画像診断(X線、CT、MRI、超音波)およびIVRの知識・技能を習得します。
- 症例豊富な順天堂大学では、神経放射線の他、小児外科の超音波などの放射線診断を中心とした研修が可能です。
- 帝京大学医学部附属病院では、救急疾患の血管内治療や大動脈ステントグラフトなどのIVR手技および救急疾患や中枢神経疾患、骨軟部疾患を中心とした大学病院ならではの幅広い画像診断を学べます。また、放射線治療の領域では通常のリニアックに加え、強度変調放射線治療や高線量率密封小線源治療の基本を学べます。
- 帝京大学医学部附属溝口病院では、頻度の高い疾患の画像診断(単純X線写真、消化管X線検査、CT、MR、核医学検査、超音波検査)および放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完いたします。
- 国際医療福祉大学成田病院では、X線撮影、CT、MRI、核医学など幅広く画像診断学を研修、IVR、放射線治療の修練を行い、東京大学放射線科研修を補完します。
- 東京北医療センターでは、common disease、救急を含めた急性期疾患及び小児疾患に対する画像診断能力を養い、遠隔画像診断の実際、加えてIVRに関しては治療適応を十分考えながら手技・技術を研修し、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- 東京警察病院では、比較的頻度の高い疾患を中心に、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVR、放射線治療について適切に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修プログラムを補完します。
- 東京都健康長寿医療センターでは、高齢者救急病院としての特質を生かし、救急外来で必要とされる急性期疾患のCT、MRIの適応、適切な検査法、画像診断を学びます。また、剖検率の高い病院であり、臨床画像、臨床病理のカンファレンスを通し、画像診断の臨床的意義、背景病理の意義を深く研修いたします。PETセンターでは、検査の適応と手技の習得、安全管理、研究レベルの新しい診断法開発の学習をしていただき、東京大学放射線科研修医プログラムを補完します。
- 東京都立墨東病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾患の画像診断、産科出血やCT下ドレナージなども含むIVR等に適切に対応できる総合的な診断能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- 国立がん研究センター中央病院は、がん診療のリーディングホスピタルとして、最新のがん医療を全国に普及する役割を担っています。同時に臨床研究中核病院として、次世代のがん医療の開発に向けて臨床研究や治験を自ら実施し、なおかつ他施設の研究支援も行っています。放射線医学の領域では、腫瘍に対する画像診断、放射線治療、インターベンショナル・ラジオロジーの施行数はいずれもわが国でトップレベルです。
- 東邦大学医療センター大森病院では、主に放射線治療について、その適応から治療計画、治療の実際をきめ細かく研修し、また、IVRを含めた放射線診断についても研修を行い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。

- 虎の門病院では、単純X線写真を含めて幅広い領域の放射線診断領域の教育を行い、東京大学医学部附属病院放射線科での研修の補完をいたします。
- 練馬光が丘病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVRに適切に対応できる総合的な診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修を補完します。
- 東京通信病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVRに対応できる総合的な診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科研修を補完します。
- 順天堂大学医学部附属浦安病院では、医学一般の基本的な技術や技術を習得した後、画像診断法(X線単純撮影、消化管造影検査、CT、MRI、核医学検査)、IVR、放射線治療ならびに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。第三次救急対応医療機関としての、急性期・災害医療にも対応できる知識と技能を習得します。
- 東部地域病院では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修プログラムを補完します。
- 自治医科大学附属病院では、大学病院の特性から、様々な画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修プログラムを補完します。
- 日本赤十字社医療センターでは、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修プログラムを補完します。
- 順天堂大学附属静岡病院では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培い、東京大学医学部附属病院放射線科の研修プログラムを補完します。

4. 募集新規専攻医数

整備基準27,28

2023年度放射線科専攻医募集定員:8名(通常枠 7名、連携枠 1名)(予定)

- 本プログラムでの直近5年間(2018~2022年度)の放射線科専攻医採用数:51名

<付記事項>

放射線科専攻医募集定員は、専門研修施設群の診療実績および専門研修指導医数等の教育資源の規模ならびに地域の診療体制への配慮により、日本医学放射線学会および日本専門医機構が以下のごとく数値上限を設定しています。本プログラムでは、この基準に基づいて募集定員を決定しています。

【専攻医受入数の上限】

専門研修施設群全体としての単年度当たりの放射線科専攻医受け入れ総数は、専門研修施設群全体の①専門研修指導医数、②年間CT検査件数 / 3000、③年間血管造影・IVR件数 / 60、および④年間放射線治療件数 / 60のうち、最も少ない数を上限とします。なお、日本専門医機構が示したシーリング該当の都府県では、当該都府県の全基幹施設が相談した上で、プログラム毎の専攻医受入数の上限が追加されます。

5. 専門研修応募者の選考方法

整備基準52

東京大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム管理委員会は、放射線科専門研修プログラムを東京大学医学部附属病院放射線科website (<http://www.ut-radiology.umin.jp/>)に公表し、放射線科専攻医を募集します。K大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラムへの応募希望者は、プログラム統括責任者宛に所定の「応募申請書」および履歴書等定められた書類を提出してください。専門研修プログラム管理委員会は、書類審査および面接試験により本プログラムの専攻医の採否を決定します。

1) 応募資格

整備基準1,3

- 初期臨床研修を修了した者、もしくは2023年3月までに修了見込みの者

なお、2023年4月以降に修了見込みの者については、専門研修プログラム統括責任者までお問い合わせください。また、研修開始の要件として、日本医学放射線学会への入会が求められることを申し添えます。

2) 応募期間

- 2022年4月1日(金)～7月31日(日)予定

ただし、定員に達しない場合は追加募集を行うことがあります。その場合には、東京大学医学部附属病院放射線科website (<http://www.ut-radiology.umin.jp/>)にてお知らせします。

3) 提出書類

- 東京大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム応募申請書
- 履歴書

現時点での必要書類は上記を予定しておりますが、変更の可能性があります。提出前に東京大学医学部放射線科医局までe-mail (utrad.ad@gmail.com) でお問い合わせください。

4) 選考方法

書類審査および面接により選考します。試験の日時・場所等は別途お知らせします。

5) 書類提出先・問い合わせ先

東京大学医学部附属病院 放射線科医局方 専門研修プログラム統括責任者 宛
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
03-5800-8666(午前10時～午後4時)
E-mail: utrad.ad@gmail.com
URL: <http://www.ut-radiology.umin.jp/>

6) その他

事情により募集期間、試験日時等に変更が生じることがあります。東京大学医学部附属病院放射線科のwebsite (<http://www.ut-radiology.umin.jp/>)に最新情報を公開しますので、そちらをご確認ください。

6. 研修内容

「放射線科専門研修カリキュラム」は、放射線科専門医の使命を果たすことができる、放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する専門医を育成するために策定されており、「到達目標」および「経験目標」から構成されます。

到達目標Aには修得すべき専門知識の範囲とレベル、到達目標Bには画像診断、IVR、放射線治療などの技能に関して求められる範囲とレベルが示されています。放射線科領域では知識と技能は重複するところが多く明確な区別ができない項目もありますが、カリキュラムでは認識、理解、知見に関わることは便宜上到達目標A「専門知識」に分類し、技術的な能力に深く関わるもののみ到達目標B「専門技能」に分類されています。到達目標Cには医療倫理、医療安全、コミュニケーション能力など、到達目標Dには生涯学習や研究活動などについて修得すべき事項が示されています。知識や技能の要求度はそれぞれの項目において、「知る、説明できる、実践できる」などの述語により示されています。

経験目標Aには画像診断に関して経験することが要求される疾患・病態等、経験目標Bには知識・技能を修得するために必要とされる検査モダリティ、手技ごとの実施数あるいは読影数、経験目標Cには治療等(IVRおよび放射線治療)に関して経験することが要求される手技・治療法と経験数が示されています。

到達目標および経験目標の概略は以下の通りですが、詳細については「放射線科専門研修カリキュラム」を参照してください。

1) 到達目標

(1) 専門知識

整備基準4

専攻医は、医療の質と安全管理ならびに画像診断法(X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査)、IVRおよび放射線治療の知識を修得する必要があります。

A. 医療の質と安全管理

- ・ 放射線診療に必要な放射線の物理作用ならびに生物作用を説明できる。
- ・ 放射線防護の理念と目標について正しく説明できる。
- ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応方法を説明できる。

B. 画像診断

- ・ 画像診断の各モダリティ(X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査)の基本的な原理・特徴を説明できる。
- ・ 画像診断と関連する基本的な解剖、発生、生理を説明できる。
- ・ 代表的疾患について画像所見を説明できる。

C. IVR

- ・ 代表的な血管系・非血管系IVRについて、その意義と適応、手技の概要、治療成績、合併症を説明できる。

D. 放射線治療

- ・ 放射線治療(外照射、密封小線源治療、RI内用療法)などの特徴と実際を説明できる。
- ・ がん集学的治療に占める放射線治療の役割を理解し、手術ならびに化学療法との併用療法について理論的根拠を説明できる。

(2) 専門技能

整備基準5

専攻医は放射線障害の防止に努めつつ、画像診断の各検査法と診断ならびにIVRおよび放射線治療に携わり、安全で質の高い医療を提供する専門技能を修得する必要があります。

A. 画像診断

- ・ 各種画像診断法のなかから、個々の患者に最適な検査法を自分自身で指示できる。
- ・ 撮像された画像について客観的に適切な用語で所見を記載し、検査目的に即した内容でレポートを指導医の下で作成できる。

B. IVR

- ・ 血管系IVRについて基本的な手技(穿刺、基本的カテーテル操作、圧迫止血等)を指導医の下で実践できる。
- ・ 非血管系IVRについて適切なガイド(誘導画像検査法)を自分自身で選択できる。

- C. 放射線治療
 - ・ 各疾患に対する適切な放射線治療法について理解し、標準的な治療計画を指導医の下で立案できる。
- D. 医療の質と安全管理
 - ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応策を指導医の下で立案できる。
 - ・ 放射線診療の質の向上のために必要な方策を指導医の下で実行できる。

(3) 医師としての倫理性、社会性など

整備基準7

放射線科領域専門医としての臨床能力には、医師としての基本的診療能力と放射線科医としての専門的知識・技術が含まれ、これらを身につける必要があります。

- ・ 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- ・ 誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、プロフェッショナルとして周囲から信頼されること
- ・ 診療記録の的確な記載ができること
- ・ 患者情報の適切な管理ができること
- ・ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- ・ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識と技術を修得すること
- ・ 診療放射線技師、看護師、医学物理士、事務職員と協働しチーム医療を実践できること
- ・ 後進を的確に指導するための能力を修得すること

(4) 学問的姿勢

整備基準6,30

科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努め、自己学習の習慣を身につける必要があります。

- ・ 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努める。
- ・ 医学、医療の進歩に追随すべく常に自己学習し、新しい知識の修得に努める。
- ・ 将来の医療の発展のために基礎研究・臨床研究にも積極的に関わり、リサーチマインドを滋養する。
- ・ 常に自分自身の診療内容をチェックし、関連する基礎医学・臨床医学情報を探索し、EBMの実践に努める。
- ・ 学術集会に積極的に参加して自己学習に努め、自らの研究成果を発表し論文を執筆する。

2) 経験目標

(1) 経験すべき疾患・病態

整備基準8

専攻医は「専門研修カリキュラム」に沿って該当する疾患・病態を経験・学習する必要がありますが、研修内容に偏りがないようにするために幅広い領域の疾患・病態を経験することが求められます。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた検査・手技・IVR」、および「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた放射線治療」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に画像診断や治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。専門研修カリキュラムに定める11領域80疾患群100症例のうち、専門研修が満了するまでに90%以上の症例を経験することを目標とします。

(2) 経験すべき検査・読影

整備基準9,15

専攻医は放射線科専門医としての知識・技能を習得するために、一定数以上の読影レポート作成および検査の実施経験を積む必要があります。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」ならびに「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた検査・手技」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に読影・検査・手技を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。モダリティ・手技ごとに下記の件数の読影もしくは手技を経験することが求められます。

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400例
消化管X線検査	60例
超音波検査	120例
CT	600例
MRI	300例
核医学検査	50例

<補足>

- ・ 研修が不足する可能性のある超音波検査や消化管造影は、専門研修基幹施設の責任の下に専門研修関連施設での研修で補完します。また、実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及びe-learningの活用等によって、不足する研修を補完します。

(3) 経験すべき治療法

整備基準10,15

専攻医は下記の件数のIVRならびに放射線治療を経験することが求められます。IVRにおける経験とは、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めたIVR」のことです。また、放射線治療における経験とは、「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた治療」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。手技・治療内容によりそれぞれ目標の症例数が設定されているので留意してください。

治療法	経験症例数	内訳	
IVR	30例	血管系	10例以上
		非血管系	5例以上
放射線治療	30例	脳・頭頸部	4例以上
		胸部・乳腺	4例以上
		腹部・骨盤	4例以上
		骨軟部	4例以上

<補足>

- ・ 実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）の活用等によって、不足する研修を補完します。
- ・ 予期しない自然災害や感染症の流行などが研修に影響を及ぼしたと考えられる場合は、日本専門医機構に相談し、特別な対応をとることがあります。

7. 研修方略

整備基準44,45

放射線科専門医の臨床能力として、専門的知識・技能に加え、医師としての基本的診療能力も習得できるよう指導します。専攻医は、「専攻医研修マニュアル」に基づき、研修を実践することになります。研修の記録は「研修プログラムシステム」に入力します。専門研修指導医は、「指導医マニュアル」をもとに指導します。

1) 専門研修プログラム制による研修

整備基準16,25,30

研修はプログラム制で実施し、研修期間は3年間以上です。専門研修プログラムにより研修を開始した日をもって研修開始日とします。

専門研修の質を保障し均一化をはかるため、必ず専門研修施設群の複数の施設をローテーション研修します。専門研修期間のうち少なくとも1年間以上は日本医学放射線学会認定の総合修練機関で専門研修を行うことを必須とします。また、放射線科専門研修プログラム新整備基準では、基幹施設での研修は6カ月以上とし、連携施設での研修は3カ月未満とならないようにすることが定められていますが、本プログラムでは各施設1年単位でのローテーションを基本としています。専門研修関連施設での研修は、非常勤医師として専門研修基幹施設の管理・責任の下に行われ、常勤医師としてのローテーション研修は行いません。

(1) 専門研修1年目

- ・ 知識:放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得する。
- ・ 技能:研修指導医の管理のもと、診断や治療に必要な画像検査が実施可能な技能を習得する。
- ・ 態度:医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣(基本的診療能力)を身につける。

(2) 専門研修2年目・3年目

- ・ 知識:放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR、放射線治療の知識を2年間で習得する。
- ・ 技能:放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を2年間で身につける。

知識、技能は研修コースの相違で段階的に習得できない場合があり、3年間で確実に習得することを目指します。また、年次ごとの目標は一つの目安であり、研修環境や進捗状況により柔軟に対応します。

専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を培います。また、日本医学放射線学会認定教育講習会を、必要回数、受講します。

3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医(放射線診断専門医または放射線治療専門医)の方向性を決定します。

2) 研修ローテーションコース

整備基準30

研修には以下の3コース(例)が設定されています。応募時にどのローテーションコースに進むか選ぶことになるので、前もって連絡してください。相談で決定します。

コース	専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
A	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設
B	専門研修基幹施設	専門研修連携施設	専門研修連携施設
C	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)	専門研修連携施設 (大学院・臨床)	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)

- コースA: 専門研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースです。基礎・臨床研究を体験できる体制が整っている基幹施設ではリサーチマインドも滋養します。(1~12か月: 東京大学医学部附属病院、13~24か月: 国際医療福祉大学成田病院、25~36か月: 東京警察病院)
- コースB: 専門研修連携施設を中心に研修するコースです。専門研修基幹施設での1年間の基本研修修了後、専門研修連携施設で臨床医としての実地研修に重点をおきます。専門研修連携施設は原則として1年ごと異動しますが、諸事情により1.5ないし2年間同一施設で研修することもあります。(1~12か月: 東京大学医学部附属病院、13~31か月: 関東労災病院、31~36か月: 練馬光が丘病院)
- コースC: 専門医取得と博士号取得を同時に目指すコースです。大学院に進学し、専門研修基幹施設のK大学医学部附属病院ならびに専門研修連携施設で、臨床現場での研修と臨床系研究および講義を両立しながら博士号取得をめざします。サブスペシャリティ領域の研修も、学位が取得できるまで同様の状況が持続します。(1~12か月: 東京大学医学部附属病院、13~24か月: 虎の門病院、25~36か月: 埼玉医科大学国際医療センター)

3) 研修方法

整備基準13

専攻医は、専門研修施設群内の施設で専門研修指導医のもとで研修を行います。専門研修指導医は、専攻医が偏りなく到達(経験)目標を達成できるように、放射線科領域専門研修カリキュラムに基づいたレベルと内容で学習指導をします。

(1) 専門研修基幹施設: 東京大学医学部附属病院放射線科

A. 放射線診断

- ・ X線単純撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRI、核医学検査(RI)などの意義、適応について十分理解した上で、臨床情報に基づいた適切な撮像法の指示を経験することができます。
- ・ 疾患および臨床状況に応じて必要とされる読影情報の提供過程を学習することができます。
- ・ 検査やIVR手技の事前のイメージトレーニングや施行後の詳細な記録作成を実践することができます。
- ・ 全身のCT、MRI、RIの検査レポートの作成ならびに上級医による添削指導や個別指導を受ける機会が豊富にあります。将来の専門分野に縛られずに、全身の画像診断に幅広く対応できるようになるための学習環境を用意しています。
- ・ 体幹部の血管造影の助手やIVR手技の助手を毎週定期的に経験することができます。妊娠中等特殊な事情があり、X線被曝を避けたい希望のある専攻医に対しては配慮しています。
- ・ 放射線科内のカンファレンス(中枢神経系、体幹部、IVR)が毎週開催され、院内で発生した症例の教訓や知識を相互に共有することができます。院外から参加する医師もいます。持ち回りで発表当番があります。
- ・ 関連診療科との合同カンファレンスやカンサーボード等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習することができます。一部で発表当番があります。
- ・ 院外の施設と合同で開催される多種多様な勉強会・研究会・学会に参加する機会が豊富にあり、単一施設の症例に留まらず、幅広く臨床経験を積むことができます。様々な会を合わせると、週1~2程度開催されていますが、任意参加です。原則参加の勉強会も年に数回程度あり、学会発表も経験していただきます。
- ・ 多様な専門性を持つ上級医や複数の同年代医師に囲まれながら、切磋琢磨した経験は、後に放射線診断医としての貴重な財産になります。

B. 放射線治療

- ・ 指導医の下で、診察、診断、治療方針の決定、治療計画の作成、実際の治療、効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察などを経験します。
- ・ 症例について、放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から治療までの過程を学習します。

<放射線治療患者の担当>
外 来

- ・ 診察医に陪席し、外来診察、診断確定に必要な検査、放射線治療の適応とインフォームド・コンセント取得に至る過程を経験することができます。

病 棟

- ・ 病棟医長のもと指導医との診療チームが構成されています。
- ・ 専攻医は指導医のもと担当患者の診察、放射線治療計画、有害事象への対処を習得することができます。
- ・ 毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受けることができます。

C. 臨床現場以外での研修

整備基準12,14

- ・ 東京大学医学部附属病院内では医療安全・リスクマネジメント、感染制御、臨床研究、文献検索等々、多彩な講習会やセミナーが随時開催されており、臨床医に求められる幅広い知識を習得することが可能です。また院外で開催されるカンファレンスや勉強会、放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加し学習することもできます。
- ・ 国内外の学会で学会発表を行うことや、筆頭著者で論文を作成することを支援します。
- ・ 病院内から東京大学で整備している多数のデータベースやオンラインジャーナルを全て参照できるため、最新の知見に基づいた学習、研修が可能です。インターネットによる情報検索の方法についても学習することができます。
- ・ 過去約20年間の放射線科レポートは電子化されており、教育的症例はティーチングファイルとしてまとめられております。これらのシステムはPACS(画像システム)や電子カルテと連動しているため、疾患のレビューや過去の類似症例の検索に大変有用であり、東京大学医学部附属病院の豊富な症例を効率的に学習することが可能となっています。
- ・ 日本医学放射線学会認定の学術集会で専門医資格の更新単位を取得可能な講習会等を聴講するとともに、標準的ならびに先進的な画像診断、IVR、放射線治療および最新の医学的知見について積極的に学習することができます。
- ・ 社会から信頼される標準的な医療を提供するために、EBMやガイドラインに基づいた医療を適切に行うこと、論理的・科学的思考法の習得や、医学研究を学ぶための環境を提供できます。具体的には、定期的に最新の診療ガイドライン変更の要点などについて勉強会を開催しています。また、毎月リサーチカンファレンスを開催しており研究の着想、方法論などについて実際の研究に参加しながら学習することができます。

□ 大学院(臨床系)

- ・ 社会人大学院生の立場で基本的に週2-3日程度は大学病院にてフルタイムで研修し、その他の時間を大学院講義出席、臨床研究、論文作成、外勤等に使うことができます。

週間予定表(診断部門の例)

		月	火	水	木	金
第1週 診断 IVR	午前	MRI	CT	MRI	IVR	CT
	午後	読影検討会 IVR	研修医講義 MRI	IVRカンファレンス CT	体幹部/脳神経カンファレンス MRI	MRI
第2週 診断 IVR	午前	MRI	CT	MRI	IVR	CT
	午後	IVR	読影検討会 MRI	IVRカンファレンス CT	体幹部/脳神経カンファレンス MRI	MRI
第3週 診断 IVR	午前	MRI	CT	MRI	IVR	CT
	午後	読影検討会 IVR	研修医講義 MRI	IVRカンファレンス CT	体幹部/脳神経カンファレンス MRI	MRI

第4週 診断 IVR	午前	MRI	CT	MRI	IVR	CT
	午後	IVR	読影検討会 MRI	IVRカンファレンス CT	体幹部/脳神経カンファレンス MRI	MRI

週間予定表(治療部門の例)

		月	火	水	木	金
治療	午前	8:15 部内カンファレンス 子宮腔内照射	8:15 部内カンファレンス ガンマナイフ 子宮腔内照射	子宮腔内照射		8:30 脳外科CB(毎週) 8:45 回診 ガンマナイフ 子宮腔内照射
	午後	子宮腔内照射 放射性ヨウ素内 用療法 17:30 骨転移CB(第3週)	13:30 病棟カンファレンス 子宮腔内照射 18:30 骨軟部CB(第4週)	子宮腔内照射 17:15 NSTカンファレンス 18:00 食道CB(隔週) 18:00 女性外科CB(不定期) 18:00 乳腺CB(不定期)	品質管理部会 スタッフミーティング 抄読会 17:00 耳鼻科CB(毎週) 17:00 呼吸器CB(毎週) 17:30 部内カンファレンス	子宮腔内照射

週間予定表(核医学部門の例)

		月	火	水	木	金
第1週 核医学	午前	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など)	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心交感神経) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)
	午後	SPECT(受容体) センチネルリンパ節シンチ PET(血流・代謝)	SPECT(脳機能・受容体) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(腫瘍) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(心交感神経) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(心臓・腫瘍) ¹³¹ I内用療法イメージング
第2週 核医学	午前	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など)	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心交感神経) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)
	午後	SPECT(受容体) センチネルリンパ節シンチ PET(血流・代謝)	SPECT(脳機能・受容体) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(腫瘍) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(心交感神経) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(心臓・腫瘍) ¹³¹ I内用療法イメージング 核医学カンファ
第3週 核医学	午前	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など)	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心交感神経) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(心臓・腫瘍)
	午後	SPECT(受容体) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(脳機能・受容体) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(腫瘍) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(心交感神経) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(心臓・腫瘍) ¹³¹ I内用療法イメージング
第4週 核医学	午前	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など)	SPECT(脳機能) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳)動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心交感神経) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)	SPECT(心・脳) 動態・静態イメージング(骨・肺・腎・消化管など) PET(腫瘍)
	午後	SPECT(受容体) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(脳機能・受容体) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(腫瘍) センチネルリンパ節シンチ	SPECT(心交感神経) PET(腫瘍・てんかん)	SPECT(心・脳) PET(腫瘍) 核医学カンファ

(2) 専門研修連携施設

整備基準11,28,29

A. NTT東日本関東病院放射線部・放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 他科との合同カンファレンスや毎週の抄読会に参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会やBLS研修に定期的に参加することができます。

- B. 川崎幸病院放射線診断科・放射線治療センター
- ・ 川崎幸病院は二次救急指定病院であり、特に急性期の画像診断とIVRについて研修を受けることができます。
 - ・ IVR科では大動脈ステントグラフト挿入、膿瘍ドレナージ、腫瘍生検といった実戦的な研修を受けることができます。
 - ・ また、併設されている川崎幸クリニックと第二川崎幸クリニックにはほぼすべての診療科が設置されており、一般的な疾患に関しては全身をほぼ網羅しています。
 - ・ 放射線治療についてはIMRT認定施設であり高精度治療を含む放射線治療全般について研修を受けることができます。
- C. がん研有明病院放射線治療部・画像診断センター
- ・ 専門研修指導医の下、希少がんを含めた悪性腫瘍(脳腫瘍と小児を除く)の画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。また、診療科の枠をこえた臓器別がんセンターボードに参加し学習することができます。
 - ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭者として学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講習会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- D. 関東労災病院放射線科
- ・ 活動度の高い市中病院で臨床各科と連携を取りつつ、外傷・急性疾患・悪性腫瘍などのCT、MRI、単純撮影による画像診断、IVR、放射線治療を習得することができます。
 - ・ 検診部門にて超音波検査、消化管造影検査の手技と読影を習得することができます。
 - ・ 必須講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- E. 北里大学病院放射線診断科
- ・ 専門研修指導医の下、日本医学放射線学会認定総合修練施設として、画像診断、ならびにIVRを幅広く習得することができます。大学病院であるとともに地域の中核病院でもあり、稀な疾患だけでなく、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍なども豊富に経験できます。特にIVRの件数も多く、十分な手技の習得ができます。
 - ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- F. 公立昭和病院放射線科
- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急疾患・頻度の高い慢性疾患から比較的稀な特殊な疾患の画像診断、IVR、並びに核医学画像診断を習得することができます。
- G. 国際医療福祉大学三田病院放射線診断センター
- ・ 専門研修指導医の下、全身の画像診断一般について学習することができます。
- H. 国立精神神経医療研究センター病院放射線診療部
- ・ 専門研修指導医の下、精神・神経疾患を扱う先進病院の勤務医として、第一線の中枢神経領域の画像診断(CT、MRI、RI、PET)を習得することができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・ 臨床研究のサポート体制が整っており、積極的な学会発表や論文作成を推進しています。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習会、倫理講習会、臨床研究セミナー等に定期的に参加することができます。

- I. 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科
- ・地域の1次・2次・3次医療を担い、地域と連携して地域医療を支えることができます。また、連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することもできます。
 - ・がん、心臓病、脳卒中を含む救急疾患を中心に、X線単純撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRIなどの最適な検査法や診断の考え方について、各分野の専門家の指導のもとで経験を深めることができます。
 - ・hands-on-trainingとして積極的に超音波検査を経験したり、血管造影の助手やIVR手技の助手を経験したりすることができます。
 - ・放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習することができます。
 - ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
 - ・筆頭演者として学会発表や症例報告を行うことができます。
- J. 順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科
- ・症例豊富な順天堂大学で、神経放射線その他、小児外科の超音波などの放射線診断を中心とした研修が可能です。
- K. 帝京大学医学部附属病院放射線科
- ・高度の専門性を有する大学病院として急性期疾患、悪性腫瘍、などの第一線の臨床に直接寄与する画像診断、IVR、放射線治療を専門研修指導医のもと行うことができます。
 - ・余裕を持った研修を心がけており、積極的に学会・研究会に参加することを推奨しています。
 - ・学会参加の補助もあり、年1回以上筆頭演者として学会・研究会の発表を行うことができるよう指導します。
- L. 帝京大学医学部附属溝口病院放射線科
- ・地域医療の中核である大学病院分院の勤務医として、頻度の高い各疾患の総合画像診断ならびに放射線治療を習得することができます。
 - ・院内各診療科とのカンファレンス、また学会、研究会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加することにより、研修を深めることができます。
 - ・学会発表を推奨しています。論文執筆も可能です。
 - ・医学部学生の臨床実習を担当することにより、自身の足りない部分を明確に意識することができます。研修に大いに役立てることができます。
 - ・院内で行われる各種研修会(リスクマネジメント研修会、院内感染対策研修会他)に参加することができます。
- M. 国際医療福祉大学成田病院放射線科
- ・専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断及びIVRを習得することができます。
 - ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・臨床研究のサポート体制が整っており、積極的に学会発表や論文作成を推進しています。
 - ・病院が実施する医療安全講習会、倫理講習会等に定期的に参加することができます。
- N. 東京北医療センター放射線科
- ・二次救急、小児救急、周産期医療を含めた地域医療の中核病院の勤務医として、急性期疾患やcommon disease、小児疾患及び悪性腫瘍など幅広い画像診断、加えてIVRを習得することができます。
 - ・関連施設の遠隔画像診断やIVRという形で、へき地・地域医療に携わることができます。
 - ・必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
 - ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。

- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- O. 東京警察病院放射線科
- ・ 専門研修指導医の下で、地域中核病院勤務医として、第一線の外傷・急性期疾患・比較的頻度が高い悪性腫瘍に対する放射線診療(診断・IVR・放射線治療)を習得することができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、教育講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・ 救急部など他科との合同カンファレンスに出席することができます。
 - ・ 病院が開催する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- P. 東京都健康長寿医療センター放射線診断科・放射線診療科
- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・悪性腫瘍・神経変性疾患などの画像診断、核医学診断への造詣を深めることができます。
 - ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。東京都健康長寿医療センターとして、後期研修医の参加を積極的に支援しています。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習への参加、放射線安全管理、PET-アイソトープ安全管理について学ぶことができます。
 - ・ 病院CPC、CC、病理スライドカンファレンス(週1回)に参加、画像診断の臨床的意義を体得することに寄与する研修ができます。
- Q. 東京都立墨東病院診療放射線科
- ・ 研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断やIVRを習得することができます。
 - ・ 東京大学医学部附属病院放射線科のカンファレンス等に参加し学習することができます。
 - ・ 必須の講習会を受講し、学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに参加することができます。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習会に参加することができます。
- R. 国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院放射線診断科・放射線治療科
- ・ 各種腫瘍に対する画像診断、放射線治療、インターベンショナルラジオロジーの施行数はいずれもわが国でトップレベルで、これらの診療を通してより専門的な放射線医学の研修が可能です。
- S. 東邦大学医療センター大森病院放射線科
- ・ 東京大学医学部附属病院とは異なる疾患について、放射線治療の研修を行うことができます。この期間は、東京大学医学部附属病院放射線科のカンファレンス、抄読会にも積極的に参加することができます。
- T. 虎の門病院放射線診断科・放射線治療科
- ・ 心臓・大血管、脳血管障害のCT、MRIのみならず核医学、エコーも研修が可能です。必須の講習会や学会出席は可能であり、また、筆頭演者としての国際学会を含めた学会での発表も可能かつ推奨されています。
- U. 練馬光が丘病院放射線科
- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。特に脳血管撮影、脳血管内治療に関する豊富な症例を経験することができます。
 - ・ 院内における内科放射線科合同カンファレンスに毎日参加することができます。
 - ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
 - ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
 - ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

V. 東京逋信病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ 放射線科関連学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する講習会に定期的に参加することができます。

W. 順天堂大学医学部附属浦安病院放射線科

- ・ 放射線診断ではX線単純撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRI、核医学検査などの撮像法の意義、適応について十分理解した上で、臨床情報に基づいた適切な撮像法の指示を経験します。
- ・ 疾患および臨床状況に応じて必要とされる読影情報の提供過程を学習します。
- ・ hands-on-trainingとして積極的に超音波検査を経験するほか、血管造影の助手やIVR手技の助手を経験します。
- ・ 検査や治療手技のイメージトレーニングや施行後の詳細な記録を実践します。
- ・ 放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはがんセンターボード等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学びます。
- ・ 1回/週の頻度にて、順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科の神経放射線診断グループとの症例検討会を開催しています。
- ・ 放射線治療では指導医の下で、診察、診断、治療方針の決定、治療計画の作成、実際の治療、効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察などを経験します。
- ・ 症例について、放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはがんセンターボード等で、疾患の病態から治療までの過程を学習します。

X. 公益財団法人東京都保健医療公社東部地域病院放射線科

- ・ 東部地域病院放射線科では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培います。

Y. 自治医科大学附属病院放射線科

- ・ 自治医科大学附属病院放射線科では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培います。

Z. 日本赤十字社医療センター放射線科

- ・ 日本赤十字社医療センター放射線科では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培います。新生児・小児および産科領域のMRIは比較的盛んです。

AA. 順天堂大学医学部附属静岡病院放射線科

- ・ 順天堂大学附属静岡病院放射線科では、地域中核病院の特性から、一般的に経験頻度の高い疾患を中心に、急性期症例など、画像診断(X線撮影・CT・MRI・核医学)、IVRについて適切に対応できる診療能力を培います。

8. 研修実績の記録

整備基準41, 44, 46

専門研修では専攻医の研修実績および評価を以下のように記録します。

- 1) 専攻医は、専門研修開始時に専攻医登録を基本領域学会である日本医学放射線学会に届け出、日本専門医機構から承認を受けます。
- 2) 専攻医は、日本医学放射線学会のHPからアクセスできる「研修プログラムシステム」に以下を記録します。
 - 達成度評価: 到達目標の自己評価を記録します。
 - A. 専門知識

- B. 専門技能
 - C. 医師としての倫理性・社会性などの事項
 - D. 学問的姿勢
 - 研修実績〔経験症例記録〕(画像診断、IVR、放射線治療)
 - A. 画像診断として経験すべき疾患・病態等
 - B. 経験すべき検査・読影等
 - C. 経験すべき治療等
 - 年次別総合評価(中間・年次末): 研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録します。
 - 講習会受講記録(医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、放射線科領域講習等)
 - 学術業績記録(学会発表記録、論文発表記録)
 - カンファレンスや抄読会等の出席記録
 - その他の記録
 - ・ 研修目標を補完するために受講した講習会やe-learningの受講証明書などのコピーを添付します。
- 3) 専攻医は、研修実績データを「研修プログラムシステム」に蓄積し、提出を求められた際に個人情報を除いたファイルとして随時対応できるように管理します。
 - 4) 専門研修施設の専門研修指導医は、「研修プログラムシステム」(一部紙運用)で達成度評価および年次別総合評価の指導者評価、研修実績等の確認・評価を記録します。
 - 5) 3年間の専攻医の研修実績と評価を記録した「研修プログラムシステム」のまとめのコピーおよび講習会・e-learningの受講証明書などのコピーを、専門研修基幹施設に設置した専門研修プログラム管理委員会が最低5年間これを管理・蓄積します。原本は専攻医本人が保管します。
 - 6) 専門研修施設には、日本医学放射線学会が研修記録などの内容について、無作為抽出による実地調査などに対応するために、随時監査できるシステムを構築することが求められます(例: レポートシステムによる読影症例の管理、治療RISによる放射線治療症例の管理など)。
 - 7) 日本医学放射線学会は、専攻医の専門研修に関わる情報を、求めに応じて日本専門医機構に提供します。

9. 研修の評価

整備基準17～22, 41

専門研修指導医が達成度評価を適宜行い、専門研修プログラム管理委員会が総括的評価を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了評価を行います。

1) 達成度評価

(1) フィードバックの方法とシステム

整備基準17,49,50

- A. 専攻医は、到達目標の達成度について、「研修プログラムシステム」を用いて最初に自己評価します。
- B. 専門研修施設の専門研修指導医は、専攻医の研修内容の改善を目的として、研修中の不足部分を口頭あるいは実技で明らかにし、「研修プログラムシステム」を用いて達成度評価を適宜行います。
 - ・ 専攻医は、研修実績を1回/月程度の回数で、専門研修指導医の評価とその確認の署名をもらうこととなります。
- C. 専攻医は、年度の間と年度修了直後に年次別総合評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。

- ・ 専門研修指導医および指導管理責任者は、専攻医の評価を年次別総合評価票に記載して、専攻医にフィードバックします。また、看護師などに多職種評価を依頼します。
 - ・ 専攻医は、研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録して、年次別報告票と研修記録簿を専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- D. 専門研修プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会を開催し、提出された専攻医からの報告票を検討し、次年度の研修内容、研修指導、研修環境、ならびに専門研修プログラムの改善に反映させます。
- ・ 専門研修プログラム統括責任者は、専攻医の報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。
 - ・ 適切な改善が得られないときは、専攻医は放射線科領域研修委員会に評価内容を直接提示することも可能です。

(2) 指導医層のフィードバック法の学習 (Faculty Development; FD)

整備基準18,36

専門研修指導医は、日本医学放射線学会が認定する「専門研修指導者講習会」、FDなどの機会にフィードバック法を学び、よりよい専門研修プログラムの作成を目指します。なお、専門研修指導医は、資格継続のため、日本専門医機構または日本医学放射線学会が主催する指導者講習会の参加が義務づけられています。

2) 総括的評価

(1) 評価項目・基準と時期

整備基準19

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医の専門研修が満了する第3年度の3月に、到達目標達成度評価、経験症例記録ならびにその他の研修記録・業績目録から専門的知識・技能・態度について総合評価します。

(2) 評価の責任者

整備基準20

年度毎の年次別総合評価は、専門研修施設の専門研修指導責任者が行い、専門研修プログラム統括責任者が確認します。

3年間の専門研修修了時の総括的総合評価は、専門研修プログラム統括責任者が行います。

(3) 修了判定のプロセス

整備基準21,53

専門研修修了の最終判定は、専門研修プログラム統括責任者および専門研修プログラム連携施設担当者等で構成される専門研修プログラム管理委員会にて、3年間の専門研修が満了する3月に、研修出席日数・プログラムの達成状況などから行われます。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括的総合評価を記載した専門研修修了証明書を専攻医に発行し、その写しを日本専門医機構放射線科領域専門医委員会に提出します。

修了判定に至らなかった専攻医に対しては、年限を延長して研修を行います。

<修了要件>

- ・ 放射線科領域専門研修カリキュラムの一般目標、到達(経験)目標を修得または経験した者
- ・ 必要な研修期間をみたすこと
- ・ 認定された研修プログラム(研修施設、研修指導医)のもとで定められた目標を達成すること
- ・ 必要な学術業績・講習会受講記録を提出すること
- ・ 専門研修プログラム管理委員会での最終審査に合格すること

(4) 多職種評価

整備基準22

医師としての倫理性、社会性の評価判定には、他職種（診療放射線技師、医学物理士、看護師、事務職員など）の医療スタッフなど第三者の意見も達成度評価に取り入れ、専門研修プログラム統括責任者が修了判定にフィードバックします。少なくとも6か月に1回は実施します。

10. 研修の休止・中断、異動

整備基準33

放射線科専門研修中に特別な事情が生じた場合には、原則として以下に示す対応を取ります。

- (1) 出産に伴う6ヶ月以内の休暇は、1回までは研修期間にカウントできます。ただし、出産を証明する書類の添付が必要です。
- (2) 疾病での休暇は、6ヶ月まで研修期間にカウントできます。ただし、診断書の添付が必要です。
- (3) 基幹施設、連携施設および指導医が常勤する関連施設における短時間雇用形態（非常勤）での研修は、6ヶ月まで研修期間にカウントできます。8時間×100日=800時間をもって6ヶ月間として按分計算を行うことにより、研修実績に加算されます。ただし、週30時間以上の短時間雇用形態（非常勤）での研修は、上記の按分計算をする必要はなく、その期間を研修期間にカウントできますが上限は6ヶ月です。
- (4) 社会人大学院のように、放射線関連の臨床研修が可能な大学院の場合は、研修期間としてカウントできます。
- (5) 留学期間、並びに診療業務のない大学院の期間は、研修期間にカウントできません。
- (6) 専門研修プログラムを移動することは、移動前・後専門研修プログラム統括責任者の承認および日本医学放射線学会専門医制度委員会の承認および機構の承認を必要とします。
- (7) 研修から完全に離れる（中断）場合は、専門研修プログラム統括責任者の承認および日本医学放射線学会専門医制度委員会の承認および機構の承認を必要とします。

11. 労働環境、労働安全、勤務条件

整備基準40

専門研修プログラム統括責任者および指導管理責任者は、専攻医の適切な労働環境、労働安全、勤務条件の整備と管理を担い、専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて、専門研修基幹施設および各専門研修連携施設の施設規定に従います。

2022年4月25日

投稿大学医学部附属病院
放射線科領域専門研修プログラム統括責任者
阿部 修